
参 考 資 料

自治会

(How) アクションプラン

I 組織運営の強化

将来予測フォーマット(表1)

会長、書記が自治会活動に顔を出し、動いている会員を下記の表に打ちこんでいく

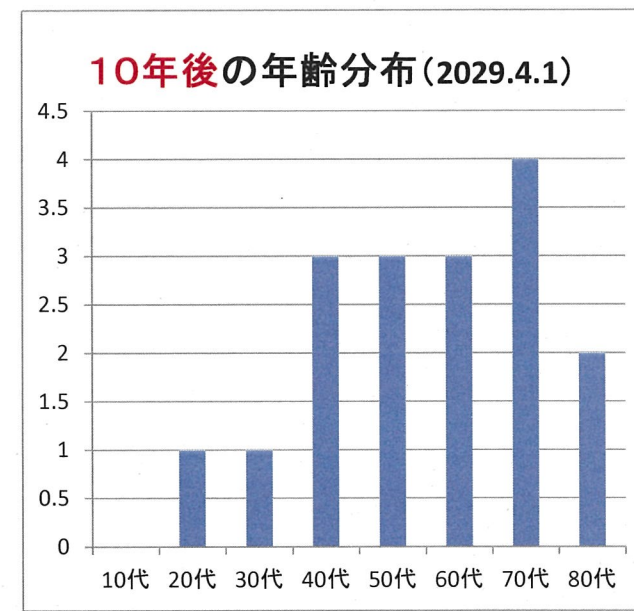
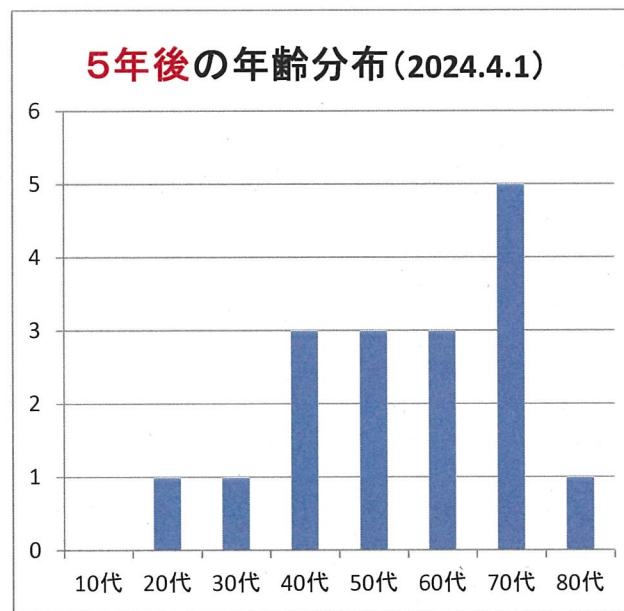
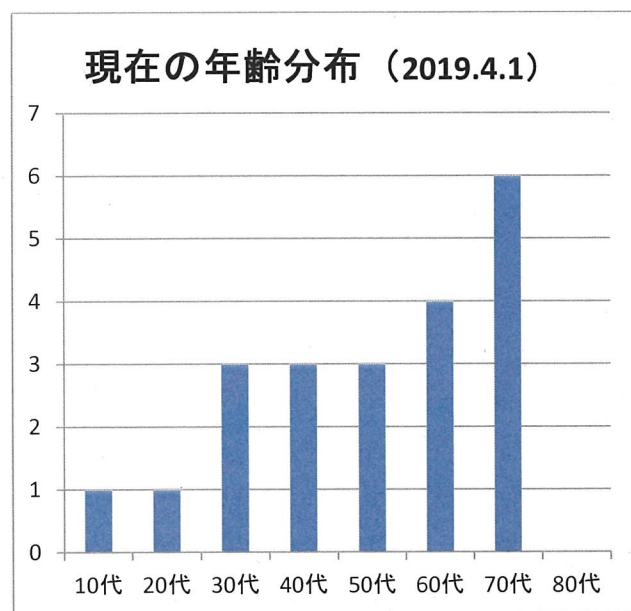
No	名前	所属・取組	年齢			特性		
			H31.4.1	5年後	10年後	分析型	企画型	実行型
1	Aさん	子ども会活動	38	43	48	○		
2	Bさん	老人会活動	78	83	88		○	
3	Cさん	朝の交通指導	72	77	82			○
4	Dさん	清掃活動	67	72	77	○		
5	Eさん	公民館まつり	35	40	45		○	
6	Fさん	子ども会活動	19	24	29			○
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

将来予測グラフ

(表1)に打ち込むと、自動的に下記の表・グラフにリンク

単位:人数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
現在(2019.4.1)	1	1	3	3	3	4	6	0
5年後(2024.4.1)	0	1	1	3	3	3	5	1
10年後(2029.4.1)	0	1	1	3	3	3	4	2



現在の活動者を基準とした際の「5年後、10年後」の活動者年齢分布の推移

活動者の特性ごと集計表(表2)

(表1)の特性を選択すると自動的に(表2)へリンク

[illegible]

個人の特性を活かした班編成表(表3)

(表2)をもとに班を編成する

[illegible]

特性判断基準シート

分析型「抽象的で理論的な思考」

——住民の動向、ニーズ分析に適した人材(分析班)

特徴

- ・物事を明確にしたい
- ・論理的な問題解決
- ・根拠を求める
- ・データや数字を重要視
- ・理性的
- ・分析により理解を深める
- ・物事の仕掛け、仕組みを見出すのが好き
- ・専門家の研究結果やデータを信頼
- ・矛盾や納得できないことは追及したい
- ・メリット、デメリットをしっかり見分ける

事例

- ・会議では「その根拠は?」「目的は?」「最終的にはどんな形にするの?」などの発言が多い。
- ・脳トレやパズルが得意で、課題を与えられると集中して答えを見出す
- ・損益分岐点や利益率など数字に貢献するデータを重視する

コンセプト型(企画型)「抽象的で感覚的な思考」

——住民が求める価値(ニーズ)に応じた企画提案に適した人材(企画班)

特徴

- ・想像力豊か
- ・アイデアに対して直感的
- ・ビジョンがある
- ・変わっていることを好む
- ・色々と試して学ぶ
- ・非日常を好む
- ・直感で物事を解決する
- ・新しいことに挑戦するのが好き
- ・映像が頭に浮かぶ
- ・様々なことに関心や注意が向く

事例

- ・新しいアイデアない?と聞かれると、色々なアイデアがでてる
- ・指示は、「適当に」、「こんな感じで」、と抽象的な表現が多い
- ・時間やお金の感覚には、あまりシビアではない
- ・新しいことには、貪欲に興味を示す

構造型(実行型)「具象的で理論的な思考」

——計画的に取組を実行することに適した人材(実行班)

特徴

- ・現実的な思考
- ・ガイドラインを好む
- ・新しいアイデアには慎重
- ・予測できることを好む
- ・実践より学ぶ
- ・方向性が定まっていることを好む
- ・マニュアルやガイドラインを求める
- ・計画を立てて確実に実行する

事例

- ・時間を守る、納期を守る、ルールを守る
- ・「きっちりとした人」、「常識人」というイメージを持たれる
- ・旅行や先の予定には、余裕を持って計画的かつ入念に準備する
- ・コツコツ積み上げる
- ・物事がきっちりと定められていることが重要

※エマジェネティックス インターナショナル ジャパン 「思考・行動特性チャート」参考

目標設定シート(加入者編、未加入者編)

自治会の目的(ゴール)

(加入者、未加入者)に対して自治会が目指す最終的な状態

ギャップ
※目的と現状とのギャップ

チェック項目: ①ギリギリ届く目標か ②シンプルな目標か ③ワクワクする魅力的な目標か

具体的な取組: 1年後までに

具体的な取組: 3年後までに

具体的な取組: 5年後までに

自治会の現状

(加入者、未加入者)に対する現在の自治会の状態

Who ～誰に向けて～	※誰をターゲットにしているのか
What/How ～何をどのように～	※ターゲットに対してどのような価値をどのように提供するのか
When ～いつ・どのくらい～	※いつ・どのくらいの期間行うのか
Where ～どこで～	※どこで行うのか
Why ～なぜ～	※なぜそれを実施するのか

ふりかえりシート ～上手かった点、反省点を事例として蓄積していく～

S ～状況～	※どのような状況で
T ～課題～	※どのような課題があったのか
A ～行動～	※課題の改善もふくめて、具体的にどのような行動を起こしたのか
R ～結果～	※行動を起こした結果どうなったのか(上手かった点、反省点)
A' ～次の行動～	※今回の事例をふまえて、次はどんな行動を起こすのか

会員参加のワークショップによる自治会の理念設定の流れ（案）

ゴール：「自治会の存在意義」「進むべき方向性」を文字で示した理念を策定する！

会議：4～5回

自治会長、自治会へのヒアリングで見えてきたもの

課題	課題の原因	解決策
会長、書記、役員、会員が自治会に対する自信がなくなっている	- 自治会加入率の低下 - 新規加入者の少なさ	自身回復、強みを見つけるテーマでプレゼン
会長が課題に向き合わず、忙しさを理由に後まわしにしている	後まわしにしても通じる風潮	面と向かって話し合える場の設定（ワークショップ）
会長、書記、役員、会員が向き合って話す場が少ない	会長が話す場を設定しない	
会員の会長まかせの風潮	会長への依存心が強い	ファシリ役（第三者）による協議進行、意見の集約
会議で話し合っても、結論がなかなか出ない	意見をまとめるスキルに長けた人材が不足	

ワークショップのルール

No	ルール	目的
1	コメントは付箋に貼る	- 意見の見える化 - 意見の平等化（若者の意見も拾い上げる）
2	コメント中は、口を出さない	意見の活発化
3	相手の意見は、褒め合う	
4	本題から話が逸れた際は、皆で軌道修正する	限られた時間で意見をまとめる

※内容が濃いワークショップを開催するためには、参加者がルールを共有し守る必要あり。

（ワークショップイメージ）



【会場内のスクリーンに掲載】

- ①ワークショップの残り時間
- ②グループワークのルール
- ③お題



ワークショップをよりスムーズに進行するため、参加者が絶えず確認できる工夫を。

○第1回ワークショップ

ゴール

- ① 「会長、書記、役員、会員」の自信回復
- ② デイスカッションを活発にできる環境を整える
- ③ 地域の強みを具体化

課題	課題の原因	解決策
会長、書記、役員、会員に自信がなく、課題に向き合っていない	・自治会加入率の低下 ・新規加入者の少なさ	自身回復、強みを見つけるテーマをズレスト
課題について深く議論されるかが未知数	課題改善に向けて話し合った経験が乏しい	グループワークを活発化するため、話しやすいテーマでズレスト

質問形式でズレスト

Q1	かねてからの友人が来年訪ねてきます。お住まいの地域の何を案内する？ ⇒会員が地域について客観的に考える、お勧めの行事、場所が分かる
Q2	なぜここに住もうと思ったの？ ⇒会員が地域への愛着に気づく ※愛着の大小がかかわらず
Q3	お住まいの地域のいいところ、強みは、どこですか？ ⇒Q1、Q2の答えをふくめて、地域のいいところを集約する

※多くの意見を見える化するため、3〜4グループにおいてワークショップを行う。



模造紙に参加者の意見を記した付箋を貼り、強みをまとめる

○第2回ワークショップ

ゴール：強みを活かした取組を具体化、自治会の存在意義に対して意見を出し合う

自治会長、会員へのヒアリングで見えてきたもの

課題	課題の原因	解決策
自治会長、活動者の外向けの意識が弱い	外部をどう巻き込んでいくか具体的に話し合われた場が少ない	ワークショップを通して外向け思考に変える
自治会の存在意義が具体化されておらず、何のために自治会が地域に存在するか不安になっている会員が多い	存在意義が言葉で具体化されていないため	具体的強みから存在意義を導く

質問形式でプレゼント

Q1	地域の強みに気づいていない人に、どのような仕掛けで気づいてもらう？ ⇒外向け思考に変える質問 誰に： 何を： どのようにして：
Q2	興味がある人に対し、どのような仕掛けで来てもらう？ ⇒外向け思考に変える質問
Q3	自治会があるからこそできることって何だろう？ ⇒自治会の存在意義を考える質問



模造紙に参加者の意見を記した付箋を貼り Q1・2・3をまとめる

○第3回ワークショップ

ゴール：自治会の存在意義を言葉で表す

質問形式でプレゼン

Q	第1・2回ワークショップを振り返り、自治会の存在意義を言葉で表そう
	⇒自治会の存在意義を具体的言葉にする



模造紙に参加者の意見を記した付箋を貼り、存在意義を言葉にする

○第4回ワークショップ

ゴール：自治会が進むべき方向性を言葉に表す、理念策定段階に移る

質問形式でプレゼン

Q1	地域の強みを活かしたうえで、理想的な自治会像とは？
	⇒地域の実情に合った自治会の理想像を言葉で表す
Q2	理想的な自治会に近づくための理念を書き出してみよう
	⇒理念策定（案）の書き出し



模造紙に理想的な自治会像、理念（案）をまとめる

○第5回ワークショップ

ゴール：理念の最終合意、普及に向けたアクションプランを立てる

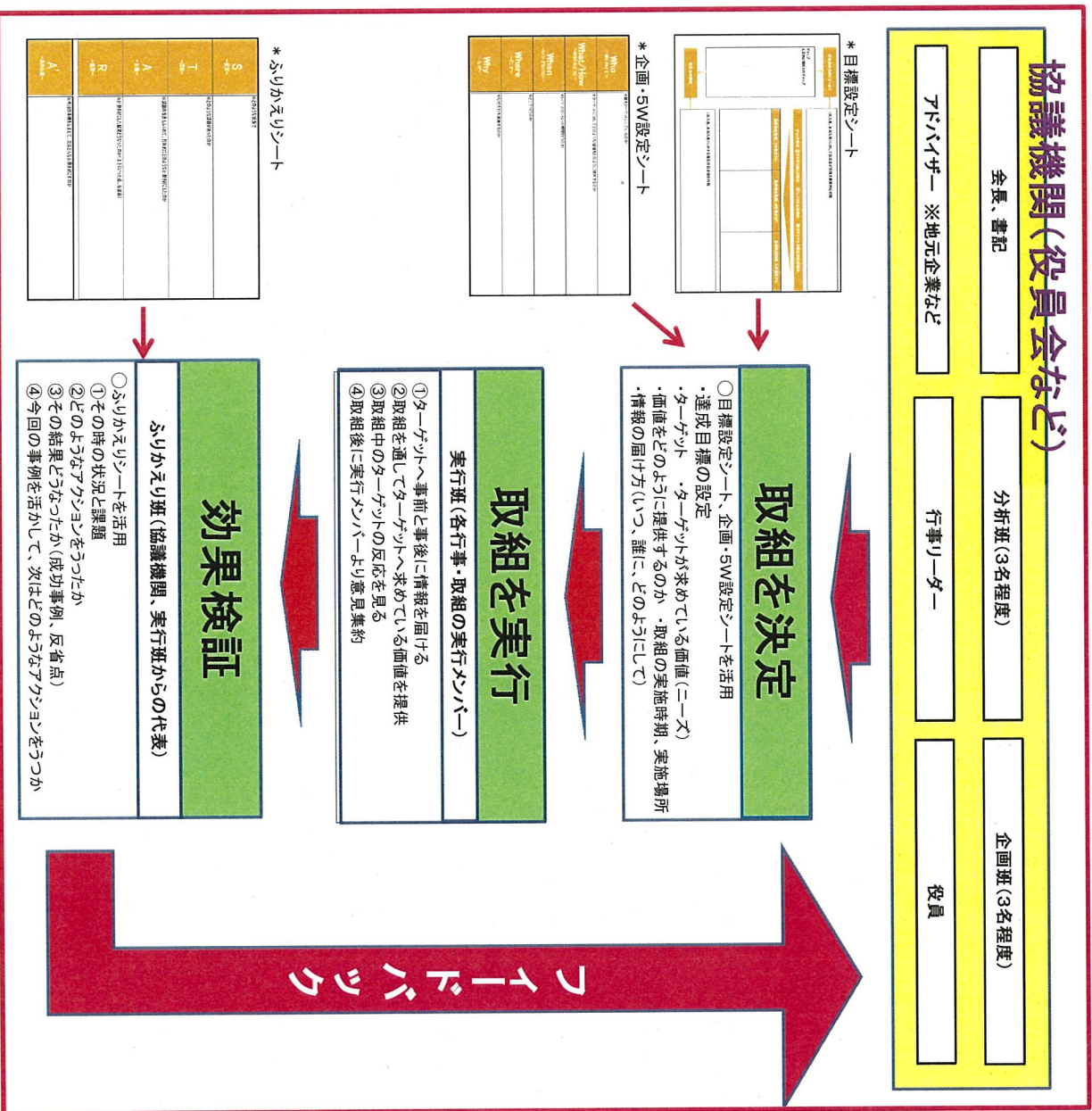
住民ニーズに応え・動ける組織体制図

No	課題	課題が起こる原因	解決策(やるべきこと)
1	住民が求める価値(ニーズ)を自治会が提供できていない	住民が求める価値を具体化できていない	分析が好きな(得意な)人材を集めた分析班を編成し、価値を具体化
2	例年同じ事業の繰り返しで、マンネリ化	企画に十分な時間をかけていない	企画が好きな(得意な)人材を集めた企画班を編成し、企画立案
3	毎年自治会長は県外視察、県内宿泊研修に参加しているが、研修前後で活動に変化が見られない。	自治会長主体で取組を実施することは困難	行動(実働)に特化した実行班を編成し、実行
4	サービスの質が低い	やりっぱなしで、改善に向けた分析・検証をやっていない	協議機関、実行班からの代表から成る「ふりかえり班」を編成し、取組後に効果検証を行う

⇒住民に選ばれるサービスを提供するためには、「住民ニーズに応え・動ける組織体制」を整える必要がある。

(理想的な組織体制図)

理念(会員の共通目標)によって組織を統制する！



○取組の流れ

- 協議機関で取組を決定(目標設定シート、企画・5Wシートを活用)
分析班が住民ニーズ分析⇒企画班が企画立案⇒協議機関で決定
- 実行班が取組を執行
- 協議機関、実行班からの代表で成るふりかえり班で、効果検証
- ふりかえり班から協議機関へフィードバックし、次回へ活かしていく

○人材が足りない場合、どう集めるか

- ①地域に詳しい人(班長など)から紹介
 - ②地元の企業(自治会加入店舗)で協力してくれそうな方を探す
 - ③自治会だよりで呼びかけ
- ⇒①から③の順で探す